

平和や命の大切さをいろん
な視点から捉え、広げていく
「種」が「ピース・シーズ」
です。世界中に笑顔の花をた
くさん咲かせるため、中学、
高校生の25人が自らテーマを
考え取材し、執筆していま
す。

初めてヒロシマに来た海外の人
に、原爆の悲惨さや平和を大切に
する気持ちをしっかりと共有しても
うためには、何が必要なのでし
ょうか。ジュニアライターが現状
を取り、これからの課題を考え
ました。

約3倍に増えました。平和記念公
園は、各国からの旅行者であふれ
ています。

核兵器禁止条約や「核兵器廃絶
国際キャンペーン」(ICAN)
のノーベル平和賞受賞。ことは
被爆地ヒロシマへの関心が海外で
さらに高まりました。

ここ数年、広島市を訪れる外国人
人は急増しています。昨年は米国
の大統領オバマ氏の訪問を受け、
約118万人と2012年に比べ
約3倍に増えました。



ヒロシマの10代がまく種

外国人観光客とヒロシマ

第51号

英語のガイド

写真・詩で五感に訴える



小倉さん(中央)から外国人を案内するこつを学ぶジュニアライター(手前左から2人目)

長年、英語のボランティアガイドをやっています。そして小倉さんの目標は、街角で外国人に質問されたら「何がな?」英語で答えられる「ヒロシマの案内人」を増やすことです。自分も含め、外国人と話すのをためらう人は多いと思います。これからは勇気を出して行動に移し、海外の友人を案内する機会があれば、自分の言葉で説明できるようになります。

(高1池田杏奈、高2岡田実優)

平和のためのヒロシマ通訳者グループ(HIP)が先月、広島国際会議場を開いた講座「ひろしまを英語でガイド」に参加しました。HIPのメンバーたちの指導で、原爆の子の像や、被爆アーチを紹介する練習をしました。